

氏名	有 道 徳
学位の種類	医 学 博 士
学位授与番号	乙 第 4 4 3 号
学位授与の日付	昭和45年 9 月30日
学位授与の要件	博士の学位論文提出者 (学位規則第5条第2項該当)
学位論文題目	肝硬変患者の脂酸代謝に関する研究
論文審査委員	教授 平 木 潔 教授 水 原 舜 爾 教授 大 藤 真

学 位 論 文 内 容 の 要 旨

肝硬変患者12例を対象として、その脂質代謝につき、in vitroの全血における $1-^{14}\text{C}$ acetate を precursor とした合成脂質のエステル化と、その際の試料の脂酸構成の面から、糖尿病10例、急性肝炎6例および健常者11例のそれと対比検討した。

合成脂酸の中性脂肪、磷脂質、遊離脂酸の各分画への分布量は、各疾患群でいずれも減少し、エステル化の率は、健常者に比し、肝硬変では中性脂肪分画に、糖尿病では磷脂質分画への特異性が強かった。

また、肝硬変と糖尿病に共通したミリスチン酸およびパルミチン酸の合成低下は主に遊離脂酸分画の変化を反映し、肝硬変に特有なオレイン酸の合成増加は、上記3分画に共通して認められたが、糖尿病との差異は中性脂肪分画において最も明白であった。なお、急性肝炎では各分画における合成脂酸の分布比の面で健常者と大差がなかった。

全血の脂肪酸構成については、パルミトオレイン酸の増加とリノール酸の減少が肝硬変および急性肝炎における特徴的な変化であり、糖尿病ではパルミチン酸およびオレイン酸の増加が主な変化であった。このような総脂酸構成における変化は、肝硬変および急性肝炎ではコレステロールエステル分画、糖尿病では中性脂肪分画の変化を最も強く反映していることが認められた。

論文審査の結果の要旨

本研究は、肝硬変を対象として、その脂質代謝につきin vitroの全血における ^{14}C acetateをprecursorとした合成脂質のエステル化と、その際の試料の脂酸構成の面から肝硬変患者の脂酸代謝の状態を研究したもので、対象としては糖尿病、急性肝炎および健常者を撰んで比較検討している。

その結果重要な新知を得ており、価値ある業績として本研究者は医学博士の学位を得る資格があると認める。